

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26 年 8 月 15 日			
所属学部・研究科	文学部 3 年次 (留学開始時点)			
留学先大学	グラーツ大学 (国名: オーストリア)			
所属学部・学科等名	Germanistik			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 25 年 9 月 2 日 ~ 平成 26 年 7 月 5 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: 指定された役所			
	取得方法, 提出書類:			
	手続きに要した日数: 約二週間			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 25 年 9 月 2 日			
経路	広島~成田~ミュンヘン~グラーツ			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容				
帰国年月日	平成 25 年 7 月 19 日			
経路	グラーツ~ミュンヘン~成田~広島			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	約 125 万	円	
	内訳	渡航費	約 24 万	円
		保険料	約 20 万	円
		教科書代(学費)	約 1 万	円
		宿舍費	約 40 万	円
		食費	約 20 万	円
		その他 (娯楽 費) (費) (費)	約 20 万	円 円 円
3. 授業について				
年 学期	月 日 ~ 月 日			

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (3 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり (現地通貨) 約 円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	保険制度は日本とほぼ違くない。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	特になし	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
基本的になし		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 28 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 27 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学前に出来る限り単位を取得しておく。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		

学習の概要に関するレポート

HUSA プログラムのおかげで、大学の授業を受講すること自体はとても簡単だった。受講するために必要なことといえば、希望する授業に登録することだけで、日本にいるときの手続きとそんなに変わらない。授業の検索も登録もすべてインターネット上で行うため、大学にわざわざ書類を提出するということもなく実にスムーズに勉強をスタートすることが出来た。

授業の選び方だが、英語で開講されているものもいくつかあるようではあったが、基本的にはドイツ語で行われる。Vorlesung（基本的に教授のみが授業を進め、学生はそれを聴く形のもの）が一番気楽に参加できるものではあるが、その一方で単位を取得するためには別途テストの登録が必要となり、またそのテストの内容が現地学生向けに作成されているためにドイツ語の難易度がそれだけ高いので、授業に参加した成果を形に残したい場合は他の種類の授業よりも難しいといえる。留学生は基本的に Treffpunktsprachen という、ドイツ語をはじめとした様々な国の言語を学ぶ学生を対象とした授業を行っている機関の、自分のレベルに見合ったドイツ語学習のコースを受講していた。

ここで開講される授業はその大半が大人気であり、学生のみならず社会人も参加する。そのため、授業の登録の際には注意が必要である。ドイツ語コースの場合、登録が可能になる時間から分刻みで席が埋まっていくために、ひどい場合だと10分ほど待機リストへ登録する羽目になってしまう。オフィスへ行ったり、直接初回の授業におもむくことで、運が良ければ定員外であっても受講を許されることがあるようではあったが、基本的には待機リストに入った時点で受講は諦めざるをえない。

初めてドイツ語のコースを受講する際には、クラス分けのためのテストを受ける必要がある。内容は筆記と口頭のふたつがあり、それらの結果から自動的に本人の実力に見合うとされるレベルのクラスへ振り分けられることとなる。もし初回の授業を受けてみて、自身のドイツ語能力と授業レベルの間に著しい差を感じるようであれば、すぐにそのコースの教員にその旨を伝えることによって、二回目の授業から他のレベルのクラスへ入れるように取り計らってくれることがある。

実際に授業に登録したり参加したりして感じたことは、とにかく何かあったら口に出して訴えてみるのが重要である、ということだ。何か困ったことや不満に思うことがあっても、こちらから働きかけない限り向こう側の人々がこちらを気遣って配慮してくれるということはほとんどない。その代わりに、言葉にして伝えると、思った以上に良い対応をしてくれることが多々あった。授業中のみならず、授業外でも積極的に動くことが、留学生活において快適な学習環境を手に入れるための鍵となるだろう。

生活の概要に関するレポート

グラーツでの生活に関して、食事と気候、治安の三点について記述する。

まず食事に関してだが、基本的に困ることはなかったといえる。野菜や肉はもちろん、米や醤油といった日本食のための食材も少量ではあるがスーパーに売ってあるので、食材で絶望的に困窮するということはまずない。もちろん、日本にいるときとまったく同じような食生活を送りたいというのなら話は別である。魚などはほとんど店頭で並ぶことはなく、割高な冷凍のサーモンしか通常は手に入らない。薄切りの豚肉や牛肉などといったものも、ほとんどといっていいほど店には並ばない。肉売り場の担当者に頼めば切ってもらえるが、想像する薄切り肉のそれとはかけ離れたものをもってして「薄く切った」と言われるため、どうしても薄切り肉が必要だという場合は個人の努力と工夫が求められることとなるだろう。しかし、そこまで食にこだわらないのであれば、先にも述べたように食で困るということはまずない。

グラーツの気候は一年を通して落ち着いており、日本と比べて飛びぬけて暑いとか寒いとかいうことはほとんどない。しいて言えば冬の寒さが厳しいといったところだが、それも現地で防寒具を購入することで対応は容易である。広島大学からの留学生はその制度上、グラーツに点在する学生寮のどれかに住むことになるが、寮の建物は当然のことながら現地の気候を考へて作られているためどの季節も大抵快適に過ごすことが出来る。空気の乾燥が日本と異なる最大の特徴の一つであり、また困ったことのひとつでもある。あまりに空気が乾燥しているため、肌が予想以上に荒れるのだ。またオーストリアの水は日本のそれとは質が異なり肌に優しくない。これらの要因が重なることで、肌荒れが加速度的に進行していったという事実は無視できない。日本からケア用品を持参していくことをお勧めする。人によっては環境の変化に耐えきれず（肌が）悲惨な目に合うということも有り得ない話ではないだろう。

グラーツの治安はヨーロッパ全体の中でみてもかなり良いほうに分類されるだろう。約一年間留学して、危険を感じるということがほとんどなかった。しかしそれも、自身で警戒を怠らず、危なさそうに見える時間や場所にはむやみに出歩かない、ということが大前提である。油断は大敵ということ肝に銘じて生活することが、痛い目や怖い目にあつた思い出を作ることなく平和に留学を終えるための一つの条件といえるだろう。